

第2章 結膜炎の鑑別診断

Differential Diagnosis of Conjunctivitis

岡本 茂樹

医療法人幸友会幸塚眼科医院

要 約

結膜炎の症候による鑑別法について述べた。まずアレルギー性結膜炎か感染性結膜炎かを、痒痒感と眼脂の性状から鑑別し、その後、眼脂の性状と濾胞の有無から細菌性結膜炎とクラミジアおよびウイルス性結膜炎を鑑別する。濾胞がなく膿性眼脂を認める場合は細菌性結膜炎が最も疑われ、濾胞があり膿性眼脂を認める場合はクラミジア結膜炎が最も疑わしい。濾胞があり眼脂が線維素

性の場合はウイルス性結膜炎で、慢性再発性片眼性の場合にはヘルペス性結膜炎、急性両眼ではアデノウイルス結膜炎またはエンテロウイルス結膜炎と判断する。このような大まかに症候から、結膜炎を鑑別することが可能である。(日眼会誌 107: 8-10, 2003)

キーワード：充血，結膜炎，鑑別診断，症候

I 充血の見分け方

前眼部の充血には、結膜充血と毛様充血とがある。この鑑別のためには、まず充血の広がりや深さを観察する。例えば、結膜充血は結膜円蓋部に最も強く輪部に近づくほど弱い。毛様充血は輪部から放射状で直線状に起こる。また拡張した血管が、結膜充血では円蓋部から輪部に向かう(円蓋部で血管が太い)が、毛様充血では輪部から円蓋部に向かう(輪部ほど太い)。また、瞼結膜充血は毛様充血ではみられない。さらに、毛様充血は上強膜を中心とする深いレベルに、結膜充血は結膜面の表層レベルを中心として出現する(図1)。

II 結膜炎の鑑別診断の進め方(表1)

1. アレルギー性結膜炎か否か

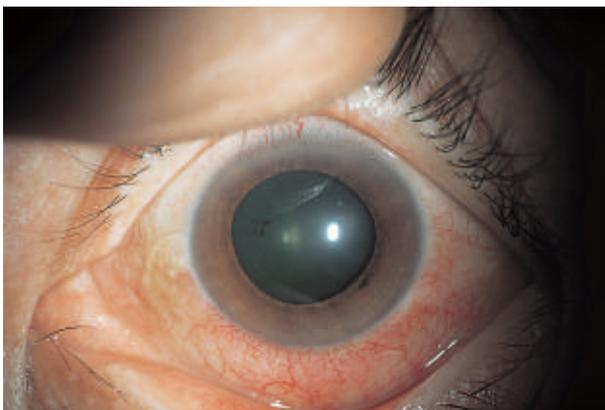
まずI型アレルギー反応か否かを鑑別するが、ここでは、痒痒感の有無、眼脂の性状、乳頭増殖の有無がポイ

ントとなる。中でも、痒痒感と乳頭増殖があれば、まずはアレルギーを疑うべきである。一方、痒痒感がなく、眼脂が膿性または線維素性の場合には感染性結膜炎を考える。春季カタルで痒痒感がなく、眼脂が膿性様となることはあるが、この場合にも、巨大乳頭が認められるので、診断を誤ることはまずない。

2. 細菌性結膜炎か否か

アレルギー性結膜炎が否定されたら、次に感染性結膜炎を念頭におく。まず、細菌性結膜炎か否かを診断するが、この時、眼脂の性状、結膜濾胞の有無、耳前および顎下リンパ節腫脹の有無を観察する。眼脂は、細菌性では黄色膿性、ウイルス性結膜炎では線維素性である。また、クラミジアは膿性に近いが、大型の濾胞形成を必ず伴う。これに対して、ウイルス性結膜炎では、小型の濾胞が下眼瞼結膜全体に認められる。細菌性結膜炎では濾胞形成はまずみられない。また、耳前リンパ節腫脹も、ウイルス性およびクラミジア結膜炎に特徴的な所見であ

毛様充血

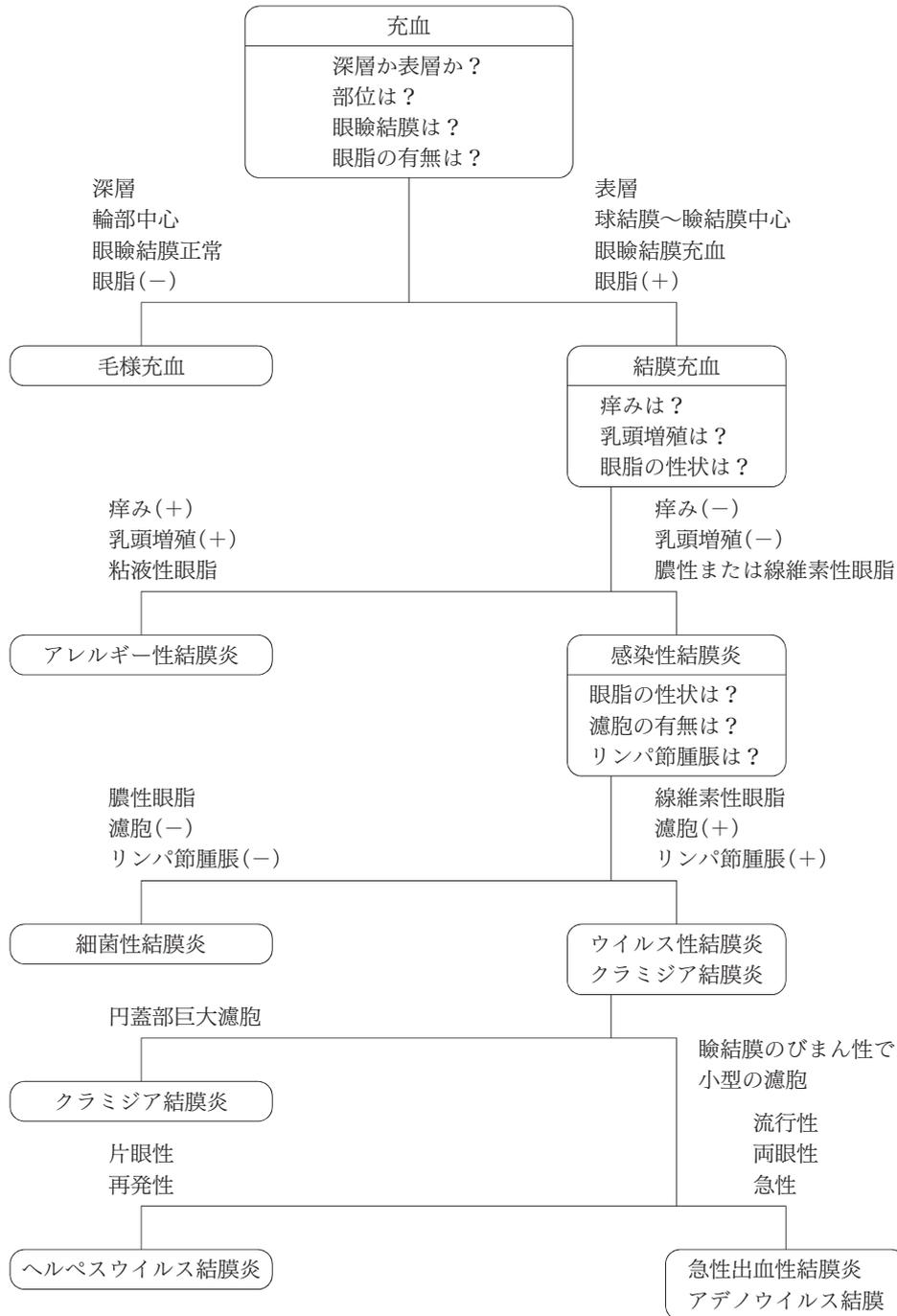


結膜充血



図1 毛様充血と結膜充血の典型例

表 1 充血の鑑別診断



る。このように濾胞形成がなく、眼脂が黄色膿性で、リンパ節腫脹を欠く場合には、細菌性結膜炎を最も強く疑うべきである。

3. クラミジア結膜炎か否か

もしも細菌性結膜炎が否定されたら、次にクラミジア結膜炎を考えるが、この鑑別には、結膜濾胞の性状が重要な決め手となる。典型的なクラミジア結膜炎では、癒合し混濁した巨大濾胞が結膜円蓋部に認められる。これに対してウイルス性結膜炎では、下眼瞼全体に小型の濾胞がびまん性にみられることが多い。また、クラミジア

結膜炎では片眼性が多く、青壮年に好発することも参考となる。

4. 単純ヘルペスウイルス結膜炎か否か

ウイルス性結膜炎に絞られたら、単純ヘルペスウイルス結膜炎か否かを鑑別する。ヘルペス性の場合、初感染と再発例で、臨床所見はやや異なる。通常は片眼性で、初感染では角膜周辺部や球結膜に上皮病変が出現したり、眼瞼に紅色丘疹を伴うことがある。特に咽頭結膜熱(PCF)との鑑別は困難で、再発性であることが診断の大きな手がかりとなるケースも少なくない。

5. アデノウイルス結膜炎かエンテロウイルス結膜炎か

これに対して、アデノウイルス結膜炎や急性出血性結膜炎(AHC)では、急性、両眼性、流行性であることが特徴である。AHCの場合、結膜下点状出血が有名であるが、アデノウイルス結膜炎でも、しばしば結膜下出血が認められるので、必ずしも絶対的なものではない。アデノウイルス(Ad)に対しては、アデノチェック[®]など

のウイルス学的検索が有用である(第4章検査の項, 図1, 表1参照)。また, AHCがほぼ両眼同時に急激に発症するのに対し, 流行性角結膜炎(EKC)などでは片眼に発症後, やや遅れて他眼に伝播するのが一般的である。潜伏期間は, Adが7日程度であるのに対して, エンテロウイルス70(EV70)では24時間程度と大きく異なる点も診断の参考となる(第3章臨床像の項参照)。